

・待降節第四主日

泉のほとり

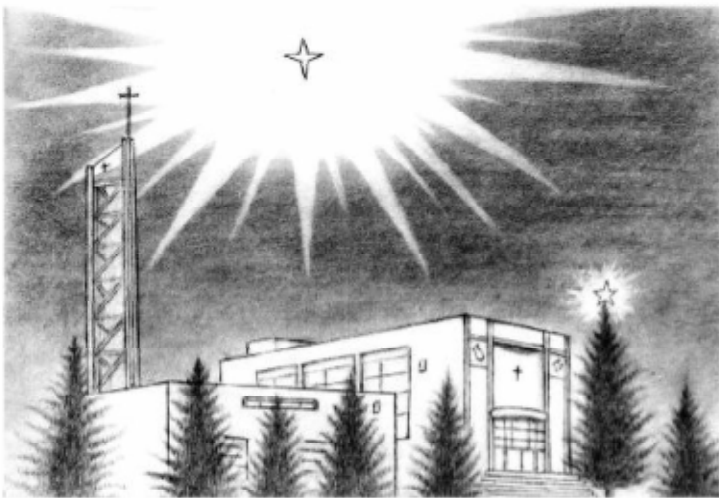
今月の詩編「第四十六編」

力を捨てよ、知れ

わたしは神。

国々にあがめられ、

この地であがめられる。



不思議な神の選び

先週は洗礼者ヨハネ誕生の予告の記事を読みました。そこで選ばれたのはザカリアとエリサベトという老夫婦です。天使がザカリアに「あなたの願いは聞き入れられた。あなたの妻エリサベトは男の子を産む」と言っていますから、子が生まれることは彼らの願いだったのです。でもザカリアはこの予告を信じませんでした。それは、願っているながらももうあきらめていたからでしょう。人間的にはありえないからです。

ユダヤ人の先祖アブラハムが召されたのは七五歳の時でした。彼は百歳で子を得ています。イスラエルの出エジプトを導いたモーセが召されたのは八〇歳の時です。どうして神さまは、若くて力の溢れた若者ではなく、高齢者を用いられるのでしょうか。それは彼らの働きが彼らの力ではなく、神さまの力によることを示すためです。

その神さまが、今度はガリラヤのナザレに住む少女を選びました。ガリラヤはイスラエルでは辺境の地です。ナザレはその中でも貧しい村で「ナザレから何か良いものが出るだろうか」と言われていたのです。そこに住むマリヤは、同じ村に住むヨセフという大工と婚約していた村娘です。

そのマリヤに天使が言います。「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる」。これを聞いてマリヤは戸惑い、考え込みます。恵まれることも、主と共におられることも、よいことであつて、戸惑ったり、考え込むようなことではないと考えるのは、甘い考えです。主が

共にいて、恵みを注がれるとは、神さまに用いられることです。それは自分の人生が、自分のものでなくなるようなのです。

恐らくこの時のマリヤの夢は、愛するヨセフと結婚して、このナザレの村で、貧しくても幸せな家庭を作ることだったでしょう。しかし神さまの選びは、彼女のこの小さな夢を吹き消してしまいました。

一体マリヤの生涯は幸せなものだったのでしょうか。主イエスが家を出て伝道を始められたときに、マリヤは主の弟たちと共に主を訪ねて来て、冷たい言葉を浴びせられました(マルコ三・三三)。主ご自身、自分の母よりも、神の言葉を聞いて守る人の方が幸いだと言っておられるのです(ルカ一一・二八)。マリヤが戸惑い、考え込んだのは理由があるのです。しかし最後に彼女は「お言葉どおり、この身になりますように」と言つて、自分の身を差し出します。このマリヤの決断によつて、神さまの救いの業が出来事になったのです。

わたしたちは、主の母になるために召されることはありません。でも主の弟子になるために召されています。天使がわたしたちにも語りかけるのです。「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる」。もしわたしたちが「お言葉通りこの身になりますように」と答えて一步を踏み出したならば、その時に、神さまの救いの業がわたしたちを通して始められるのです。

(ルカ一・二六〜三八)

忘れぬように

わたしの別れの時・・・。

(第二テモテ四・六)

永遠なる神よ、

我らがこの書を聞くとき

我らが死なねばならぬことを、

思わせてください。

我らが高ぶってはならぬことを。

恵みを受ける際に

我らを心低くしてください。

とりわけ説き明かし、

説教する人たちのために

我らは祈る。

彼らがあなたの言葉を

失うことのないようにと。

総ての人間の記憶からわたしが消し去られてもかまわない、わたしの働きの実が無に帰さないのならば、わたしはこれまで教会のために、心から真の熱意をもって働いてきたし、この生の目的から、どんな妄想も悪意も瞬時たりと

て逸れさせることはない。ただ、わたしには、敬虔な人々の愛と教えにおける互いの一致が、この上ない慰めです。我々は日ごとに死の剣にさらされているので、わたしはあなたに我々の町と教会のために執り成すことを勧めます・・・。(ターフィット・ヴェーター牧師へのカルヴァンの書簡)

R・ポレン著 「祈る」より

今日のお知らせ

○今日はクリスマス礼拝です。礼拝の中で、洗礼式を行います。

受洗者 川越ひかり

教友 菊池美穂子副牧師

○礼拝後、ロビーでコーヒーのサービスがあります。また幼稚園舎一階のパンジーの部屋では「ぶどうの会」の特別プログラムが行われます。

○一時五〇分から礼拝堂で、教会学校小学科の生徒によるページェント「羊飼いの笛」が上演されます。

○一二時三〇分からホールで、クリスマスを祝い、新たに群れに加えられた姉妹を歓迎する会を行います。

○その後、愛餐会です。今日のメニューは、ポーク紅茶煮、リースサラダ、コンソメスープ、グリーンピースライス、ワンダフルクリスマスフルーツです。ご期待ください。

○明日二四日(月)午後四時半と六時半の二回、クリスマスイブ礼拝を行います。混雑が予想されますので、早めにおいでください。

○次週三〇日と、その翌週の一月六日も、朝一〇時からの一回礼拝です。

○事務所は二五日まで出勤し、翌二六日から一月五日まで、年末年始の休みに入ります。平日は七日から通常業務となります。

○紫園香音楽伝道師は、本日は、ニューコミュニティ基督兄弟団西宮教会の礼拝で、また二四日は尾上聖愛教会のクリスマスコンサートで奉仕をします。お祈りください。

四国便り

山茶花の白い花が沢山咲いて教会の庭には初冬の風が吹いております。

うっかりと十一月の教会報告をお送りするのを忘れておりました。誠に誠に申し訳ございません。十月の終り頃には十一月九日、十四日までの「教会作り合同研修会」の事に集中しておりました。五十分間をかけて証をして下さいとの事にあたふたとしておりました。そんな訳なのですが、牧会の内容は「主のご臨在に備えて」救い主イエス様より「愛するわが花嫁よ！」とお慶びいただけますように全ての心の思いと行動において動機を聖なるところに置いて進みますようにというものでした。教会員の皆様の聖なる信仰に励まされ御霊の一致に感動しております。数年前にはびっくりする様なちよつとした分裂に心を痛めたこともありましたが、現在しっかりと主に仕え教会を愛し牧師に仕えて下さっている皆様には驚きと共に敬意をこめて感謝しております。

今年の教会学校の生徒さん(六年生)が受洗希望となられ、主がお喜びになつてゐることです。聖劇も御降誕のシーンも有りますが、イエス様が地上でなさつた病人のいやし、洗礼を授けるシーン、ご臨在をお約束なさつたシーンも加えられ、これ迄とは内容が一新いたしました。教師一同喜びで満たされております。

いつも私達小さき群れを覚えて下さり尊いとりなしのお祈りを有難うございます。教会はこれから少しづつ主によつて変化し成長してゆくうれしい予言をいただいております。どうぞお祈りをお願い申し上げます。感謝をこめて。

二〇一八年十一月 田端良恵

聖書の会

● 朝の聖書の会

● 聖書の夕べ

今学期は終了しました。

三学期は、2019年1月9日(水)より始まります。

次週礼拝

● 年末礼拝(午前10時)

讃美歌 106番 112番

説教 「エジプトへ逃げた主イエス」

聖書 マタイ2章13〜23節

説教者 菊池美穂子 副牧師





クリスマス礼拝 (午前10時)

讃美歌 106番

112番

説教 「平和の王の誕生」

聖書 イザヤ11章1～10節(旧約P1078)

司式 黄允滢 副牧師

説教者・聖餐司式 吉村和雄 牧師

前奏曲「エサいの根より」 J.M.ラブレ

○ 讃美歌 106番

1. あら野のはてに 夕日は落ちて
たえなるしらべ 天よりひびく

※ グローリヤ イン エクセルシス デオ
グローリヤ イン エクセルシス デオ

2. ひつじを守る 野べのまきびと
天なる歌を 喜びききぬ

※ くりかえし

3. み歌をききて 羊飼いらは
まぶねにふせる み子をおがみぬ

※ くりかえし

4. 今日しも御子は うまれたまいぬ
よろずの民は いさみて歌え

※ くりかえし アーメン

○ ソプラノによる讃美

「さやかに星はきらめき」 讃美歌Ⅱ編219番

○ 聖歌隊による讃美

「神のみ子は」 B.ハルツ

グローリア インエクセルシス デオ!

グローリア インエクセルシス デオ!

神のみ子は こよいしも

ベツレヘムに 生まれたもう

いざや友よ もろともに

急ぎゆきて 拝まずや

急ぎゆきて 拝まずや

とこしなえのみことばは 今ぞ人となりたもう

待ち望みし主の民よ 急ぎゆきて拝まずや

アーメン

○ 讃美歌 112番

1. もろびとごぞりて むかえまつれ

久しく待ちにし 主は来ませり

主は来ませり 主は 主は来ませり

2. 悪魔のひとやを うちくだきて

とりこをはなつと 主は来ませり

主は来ませり 主は 主は来ませり

3. この世の闇路を 照らしたもう

たえなる光の 主は来ませり

主は来ませり 主は 主は来ませり

4. しほめる心の 花を咲かせ

めぐみの露おく 主は来ませり

主は来ませり 主は 主は来ませり

5. 平和のきみなる み子をむかえ

救いの主とぞ ほめたたえよ

ほめたたえよ ほめ ほめたたえよ アーメン

聖餐曲「いづこの家にも」 J.S.バッハ

後奏曲「ヘンデルの「門の戸あがれや」による行進曲」

△ギルバ